評価結果一覧

1　作品収集・保存事業の評価　【評点５】

＜過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館＞

（1）優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集　【評点４】

≪評価の理由≫

●継続しての取組みは高く評価できる。

●収集点数が 2,200 点以上という群を抜いた数を達成している。資料も多くまた寄贈も増えているのは、所蔵家や写真家、遺族が写真美術館に信頼を寄せていることでもあり、長年の実績の成果である。

●19 世紀末の貴重なコレクションを更に充実させる独自の収集方式は、特筆に値する。

●基本方針および収集指針が明確に立てられており、これに基づく収集が適切に行われている。とりわけ、「写真作品」に限定せず、「写真資料」および「写真機材類」を視野に入れている点を高く評価する。

●均衡のとれた収集実績がみられ、努力の跡がしのばれる。

●コレクションの対象としての「重点作家」および「新規重点作家」の選定はよく練られていると思うが、歴史に耐えうるかどうかが問われるはずで、リストアップされた作家に関する不断のチェックが必要になる。具体的にいえば、次の新指針はいつ策定されるのか、その計画があるのかが定かではない。

≪指摘された課題・提言等≫

●映像作品の収集内容、基準がよくわからない。

●プリントスタディルームについて、広報･告知の方法を検討してほしい。

（2）的確な作品管理　【評点５】

≪評価の理由≫

●陸前高田市立博物館の被災写真資料の洗浄とデジタル化に協力し、プロジェクトチームを作って貢献していることを評価したい。

●保存状態の様子を的確に判断し、次につなげている。

●大学との共同研究による作品修復や、作品保護の観点からの展示環境の整備を恒常的に実施している。

●千葉大学との共同実験が実績を生んでいる。

●目標水準を高く設定し、的確に作品管理がなされている。とりわけ、温湿度のきめ細かいチェックと管理は、他の多くの美術館よりもはるかに優れている。

≪指摘された課題・提言等≫
●災害時の作品安全管理における抜本的な対応策については、今後の検討を待つことも多く、継続した活動が望まれる。

（３）写真・映像に関する幅広い調査・研究　　【評点４】

≪評価の理由≫
●写真専門館としての調査・研究を着実に進めている。特にコレクション展は、写真美術館のコレクションにとどまらず、他からの借用も併せて展示するなど、系統的な調査の成果が表れている。
●陸前高田市立博物館の被災写真資料デジタル化プロジェクトについて、館をあげての支援活動に展開したことを評価する。こうした社会活動が、研究に根ざしつつも、すでに評価項目としての「調査・研究」を超えていることはいうまでもなく、写真美術館が新たな活動領域を開拓したことを意味している。
●展覧会図録並びに紀要という調査・研究の発表の機会は、その内容において十分に充実しており、本来のミッションが果たされている。
●写真研究に志して、写真美術館で仕事ができるということは誇りだろうし、やる気も出てくるに違いない。
●若い学芸員等による清新な研究・発表の出現を期待したい。

≪指摘された課題・提言等≫
●学芸員の活動も活発なようだが、何よりも担当の展覧会図録でのテキストの執筆に力を注いでもらいたい。
●学会発表が少ない。大学等研究機関との連携にも積極的に取り組んでもらいたい。

２　展覧会企画の評価　　【評点５】
＜質の高い写真・映像文化と出会う美術館＞

（１）来館者数の目標達成と集客増　　【評点５】

≪評価の理由≫
●しっかりしたコンセプトのもと、年間観覧者 38 万人を超えたことは見事であり、また、新たな来館者の掘り起こしを視野に入れている謙虚さは評価できる。
●23 年度は恵比寿映像祭の集客、特に外部設置作品の人気もあり 42 万人以上

を達成し、目標を大きく上回った。
●東日本大震災の影響が残っている年度でありながら、前年を上回っているのは立派である。
●前年よりも来館者が増え、かつ過去の最高水準である 44 万人台に近づいており、数値からは十分に評価できる。
●東日本大震災による後遺症もあって、他の博物館等の来館者数が軒並み減少に直面したことを考えれば、十分に健闘したものと評価する。ことに、閉館時間を極力抑えることで、震災の影響の波及を防止できたことは館員の努力の賜物である。

≪指摘された課題・提言等≫
特になし

（2）質的な満足を得られる機会の提供　　【評点４】

≪評価の理由≫
●23 年度の展覧会は充実していた。「ストリート・ライフ」展、「クーデルカ」展が興味深かった。
●生誕 100 年の「ロベール・ドアノー」展は、個人的にも非常に嬉しく、満足いくものであった。
●恵比寿映像祭は、ギャラリー内での作品数を絞り、丁寧な見せ方の工夫が見られた。
●陸前高田市出身の「畠山直哉」展では、震災後の被災地の写真も含め、時機にかなった質の高い展示であった。
●年間を通して黎明期の古写真から現代まで、写真の歴史、写真の訴求力、新しい写真や映像の表現など、収蔵展、自主企画展は多様な機会の提供に配慮している。
●「芸術写真の精華」展、「クーデルカ」展、「畠山直哉」展と素晴らしい自主企画展がある一方、毎年、新進作家展の説得力に懸念が残る。
●地下 1 階の映像展示が、以前より概念化、難解化していないか。新しいものに挑戦することは評価したいが。
●「夜明け前」展や「ベアトの東洋」展など草創期の写真、「芸術写真の精華」や「堀野正雄の世界」展などの近代写真、「クーデルカ」展や「畠山直哉」展などの現代写真と、大変バランスよく、良質の展覧会が開催されている。さらに、写真家の個人展、「芸術写真」や「ストリート・ライフ」などテーマ展、子供を切り口とした一連の展覧会など、観点が多彩で見応えがあった。
●23 年度も自主企画展によって多くの話題を提供した。なかでも注目されるのは「畠山直哉」展である。自然と人間への鋭利な視点が刺激的であるが、

オランダ、アメリカなど海外において巡回展示されたように、国際的なトポスを形成していることを喜びたい。写真美術館としては、常にグローバル・スタンダードを念頭に置いてほしい。

≪指摘された課題・提言等≫

特になし

（3）良質な映画の誘致と上映　　【評点４】

≪評価の理由≫

●上映作品の選定にも独自性が感じられるようになってきたが､｢モーツァルトの恋」とウィーンフィルが唐突に思われた。

●理想的には、ホールの上映作品と映像作品収集が呼応していれば、写真美術館の活動として魅力あふれるものになるような気がする。

●写真美術館での映画上映は､メッセージ性があるものばかりでユニークであり､他の映画館との差別化はできていると思う。

●23 年度はドキュメンタリーの佳作を集め、ラインナップに一貫性が見られた。

●良質な映画を選定し上映された。ラインナップは前年度よりも向上している。

●恵比寿映像祭は、15 日間という長期にわたり、参加作家と観覧者の数値も前代未聞の水準に上り、話題を広く提起したことは大成功の証であるが、各分野での連携や将来に向けての展開の可能性には不安も残したので、早急な検討が必要であろう。

≪指摘された課題・提言等≫

●映画を当館の活動の柱にして行くのであれば、映画を専門とする学芸員の配置を考えてもよいのではないか。

●「実験劇場」という看板が必ずしも適切とは思えない。「実験映画」の上映という誤解を招く。例えば「恵比寿映画館」「シアター恵比寿」といった普通の名称で、中身で勝負し、この映画館の存在を浸透させる方法もあるのではないか。

●映像ホールにおける上映期間などについては、観覧者への周知も含め、対応法にいまひとつ熟練を要する部分がある。

３　教育・普及事業の評価　　【評点４】

＜写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館＞

（1）対象者に応じて多様なプログラムの提供　　【評点４】

≪評価の理由≫

●展覧会にかかわるトークやワークショップ、学校のプログラムなどを着実に行っている。

●講演会やギャラリートークへの参加者の急増を評価。

●スクールプログラムは高く評価できる。学んだ子供たちがいつの日か・・と考えると夢のあるプログラムである。

●専門的なワークショップは写真美術館ならではの催しであり、他館では一般向け・子供向けのものが多いなかでユニークである。この路線を発展させてほしい。

●写真関連団体とのワークショップはもっと増やしても良い。さらに、広く写真文化に触れる（例えばカメラ工場の見学などの）事業を企画したらどうか。写真美術館が社会に積極的に展開し、発信する重要な活動である。

≪指摘された課題・提言等≫

●ギャラリートークの参加者が増加したことは喜ばしいが、その運用方法については、なお研究の余地があろう。

（2）図書・情報の収集と公開の促進　　【評点４】

≪評価の理由≫

●図書館利用者の増加は素晴らしい。図書館に来館する人が多いということは、「写真に関することを知りたければここ」という意識が定着しつつあるということだ。

●HP 上で所蔵雑誌リストの公開はニーズに応えていると思う。また、写真、映像に関しての質問にも電話などで対応してくれるのは嬉しいサービスである。

●小規模ながら、写真・映像専門図書室として堅実に活動している。

●写真の収集・展示に匹敵するほど写真美術館が力を注ぐ重要な活動である。現状では、写真雑誌のバックナンバーの欠号がかなりあるので、これを積極的に補充することが求められる。

●わが国唯一の写真専門美術館として、今後とも特に洋書・洋雑誌の収集にあたり、国際的水準や方向性に対する鋭敏な感受性を培ってほしい。

≪指摘された課題・提言等≫

●収蔵スペースが狭い。

●HP 上の雑誌リストの公開による OPAC 検索サイトの供用は、さらなる成果に結びつくよう工夫してほしい。

４　広報事業・情報発信の評価　　【評点５】
＜写真・映像文化の拠点として貢献する美術館＞

（１）効果的な広報・宣伝　　【評点５】

≪評価の理由≫

●写真美術館年報は非常に良くなった。体裁は変わっていないが、丁寧に編集されていて、わかりやすかった。
●広報誌写真美術館ニュース eyes は、毎回表紙など見て手に取ってみたくなるつくりの良さが評価でき、また、懸垂幕も面白いし、壁面スペースの利用も良い。
●記者懇談会の実施や自主新聞広告、広報誌の発行、広報イベントの開催など、創意を重ね、集客に結びつけている。
●敷居の低い美術館というイメージは定着してきているのでは。
●経営目標に掲げられたコンセプト「広報マインドの実践」は、当該年度に限らず、常時意識すべきものだろう。
●プレスリリースが積極的に行われている。また、記者懇談会やギャラリーツアーなども意欲的に行われ、成果を上げていると評価したい。
●この規模の美術館において、これだけの新聞広告等の広報を行っていることは、大いに評価される。
●前年度に始まった広報誌別冊 nya-eyes は、本年度は 12 号分が発行され注目を集めた。未だ編集方針に揺らぎがみえるが、現代風のイメージ図像は、美術館としての斬新さが感じられる。
●将来的な課題だが、国際的な発信、もしくは英語による発信の方向も検討しておいてほしい。
●「江成常夫」展での音声ガイド導入は試行だと思うが、その効果を検証すべきである。

≪指摘された課題・提言等≫

特になし

（２）インターネット等を用いた情報発信の推進　　【評点４】

≪評価の理由≫

●HP は整理されてわかりやすかったが、「映像」をうたっている以上、動く部分があってもいいのではないか。HP を閲覧するとき、図柄が踊ったり、音楽が流れたりというのは、別世界に行くような感じがして悪くないと思う。
●インターネットはなくてはならないくらいに不可欠で、今後も独自の発想で展開してくれると期待している。

●HP のデザインは以前より見やすくなった。
●コレクション検索、図書検索やブログもあり、発信に努めているが、英語版では Library の項目があるものの英訳にいたっていない。
●ウェブサイトは見やすく、かつ館長の肖像写真入りのメッセージが掲げられ、写真美術館の姿勢や意欲が伝わるものとなっている。ただし、デザインが少々華やかさに欠ける。
●トップページに館の建物の写真を出して、常に美術館の存在をアピールすべき。
●紀要の掲載は「活動報告」とするのではなく、むしろ「研究」という項目を別に立て、当館の学芸員による研究成果を発信することを勧める。
●陸前高田被災資料デジタル化プロジェクトが、トップページから入っていけることはとても良い。

≪指摘された課題・提言等≫
●今後はコレクション検索を充実させるべきだろう。著作権の関係から作品画像の公開は難しいかもしれないが、長崎大学図書館のように、古写真の画像データベースなどは作成・公開してもよいのではないか。
●近年、各施設にあっては、ネット発信の可能性が追求されているが、その効果のありようについては議論もある。まずは、HP へのアクセス数の分析など、地道な調査・実験に取り組み、公表してほしい。

５　来館者の視点、企業・団体の参加、ボランティア事業、地域連携の評価
＜開かれた美術館＞　　【評点４】

（１）良質なサービスの企画・提供　　【評点４】

≪評価の理由≫
●ショップがとにかく個性的で面白い。いつもお客様が入っており、定着している。
●カフェ、ショップなどの弾力的な運営など、写真美術館の組織力を発揮し、改善を心がけている姿勢は評価したい。
●接客態度に問題はないが、１階ロビー、階段、エレベーターから降りて展示室へと向かう空間デザインがあまり快適とはいえないため、よい印象を抱きにくい。親しみやすさ、居心地の良さ、温かみが足りない。
●ミュージアムショップは写真美術館の名物である。ことに一般書店では入手しにくい写真集、展覧会図録などの品揃えは、望ましい水準にある。こうした購入者のニーズに応えるようなマーケットやリサーチ、新規オリジナルグッズの開発が、さらに必要であろう。

●2 階カフェを自販機スペースにしたのはもったいない気がする。
●利用者が多い 1 階ホールやチケット売場はごたごたした感じを与える。

≪指摘された課題・提言等≫
●ショップは充実していると思うが、カフェと有機的につながるようにするともっといい雰囲気になるのではないか。
●ショップの書籍、写真集のさらなる充実を図ってほしい。

（2）企業・団体等の参加促進　　【評点５】

≪評価の理由≫
●この不景気な時代に、さまざまな企業、学校、団体の支援会員が増えているとのこと、大変結構。支援会員に写真関連、印刷関連等、写真美術館の性格と関連深い企業・団体があるのが心強い。
●日大藝術学部の協力機関としての位置づけなど、特異な方法が成果を上げていることも評価できる。
●支援会員制度はその企業の評価にもつながり、評価できる取組みだ。
●多くの支援団体・企業の獲得に成功している稀有なケースで、継続力を評価したい。
●恒常的な美術館の活動を実質的に支える役割を果たしており、企業に対しても参加意識を高め、貢献度を確認させることができている。
●この活動は、写真美術館の最大のメリットである。
●財務上の支援要請ばかりでなく、活動・広報対象の拡大を目標として、新しいターゲットを開発してほしい。
●支援会員数がさらに増え、十分な成果を上げていると評価できるし、会員に対するケアも適切十分である。

≪指摘された課題・提言等≫
特になし

（3）ボランティアの参画促進　　【評点４】

≪評価の理由≫
●ボランティアを受け入れることは写真美術館にとって大事なことであり、今後も大いに受け入れてほしい。
●ボランティア活動を恒常的に実施し、それなりの成果を上げている。
●前年度に比べて、それほど参画を推進しているとは思えない。

●ボランティア自身の満足度調査や意識調査を実施し、それを活動に反映させるべきだろう。
●数値的には、なおいくらかの拡大も必要であろうが、ボランティア活動については、現在各施設ともその方向性について見直し段階にあり、それらとの密接な経験・情報交流を推進すべきであろう。

≪指摘された課題・提言等≫
●ワークショップやスクールプログラムの手伝い以外の活動領域の開発を考えるべきではないか。

（4）地域との連携強化　　【評点４】

≪評価の理由≫
●土地柄に恵まれ、連携施設も質が高く多様である。これをもっと生かして活動の幅を広げてほしい。
●地域との連携をいつも意識しているのを感じる。共に生きるの精神は評価できる。
●地域連携は時代の要請でもあるので、強化の意図はわかるが、例えばお祭りにブースを出しゲームをして多くの参加者を得たとしても、実質的に写真美術館にとってどの程度の成果をもたらすのかは判然としない。
●22 年度の「Welcome！恵比寿」に対し、23 年度は「あ・ら・かるちゃー」が全面に出てきたが、前者の検証は行われたのか。
●地域的な連携の必要性や有効性は、さまざまな局面で検討できる。例えば、恵比寿映像祭における入場者数の激増は、入場無料だったことにもよるが、むしろ恵比寿地区にさまざまな目的で来訪した人々がもたらしたものでもある。同様のことが、恵比寿地区内や他の関連地区の諸施設にもいえるはずである。都市型のミュージアムにとっては、お客様は多様な関心を併有しており、買い物客がミュージアムに、散歩客がふらりとミュージアムへとランダムだが、有為な行動をとるものだからである。

≪指摘された課題・提言等≫
●ここでいう「地域」をどうとらえるのかをまず館内で十分に協議し、戦略を立てるべき。大きく分けて、恵比寿という商業地域と、住民や学校を主体とした生活地域があるはず。

６．インフラの改善　　【評点３】
＜ミッション達成のための必要な基盤の整備＞

≪評価の理由≫

●大規模改修が計画されているが、一度済めば次の機会は遠い。これに関わる全ての人が当事者意識を持って、学芸の仕事の施設だけではなく、公共施設のひとつひとつの計画について、慎重かつ大胆な案を練り上げてほしい。

●お客様の安全と職員の健康管理、お金がかかることだが怠ってはいけない部分をおろそかにしない姿勢は写真美術館の信頼性を高めている。

●設備の良好な維持管理、危機管理、安全衛生管理などは着実に実施している。

●インフラ改善には、組織的、人的基盤の整備も含まれる。美術館単独判断ではなく、財団の意向もあると思うが、年間相当数の展覧会や教育プログラムを実施し、集客に努めるには、現在よりもスタッフの数は必要である。

●事務にも学芸員を配置しているのは、学芸員の総合力を鍛える配慮だとすれば、新たな試みといえる。

●インターンを活用していること、渉外担当を置いていることなどを含め、小回りが利く人員体制で効率を上げる努力が見られる。

≪指摘された課題・提言等≫

●大規模改修の設計段階に入っているが、これまでの反省をふまえて最大限の改修を行うべきで、写真美術館の意見を十分に反映させてほしい。

●必要なインフラ改善の多くは大規模改修にかかっており、現在のところ検討途上にあるが、館内表示など狭い範囲で着手できる部分については、早急に取り組んでほしい。

●危機管理という意味では、将来の大地震に備え、館内の訓練だけでなく、被災者や帰宅困難者の受入なども想定してほしい。